

# 解剖学的二重束前十字靭帯再建術実施率

## ● 説明

前十字靭帯再建術をおこなうときに、一般的にはハムストリングを使用して再建しますが、その際に一重束で行う方法と二重束で行う方法があります。本来の前十字靭帯は前内側線維と後外側線維の2本の機能的に異なる線維から構成されている事がわかっており、二重束で行う方がより解剖学的と言えます。ただ、二重束で再建する場合は骨にあける穴も2つ必要となり、テクニカル的にも難しくなり、国内でも主に高度な医療施設で行なわれている手術法になります。海外では限られた高度な施設でのみ行われているのが現状になります。当科ではこの解剖学的二重束再建術を理想的な再建術と考え、一般的な一重束ではなくできるだけ二重束での再建を目指しているため、この指標を設定しました。

## ● 計算式

$$QI = \frac{\text{解剖学的二重束前十字靭帯再建術の手術件数}}{\text{前十字靭帯損傷に対する全手術数}} \times 100$$

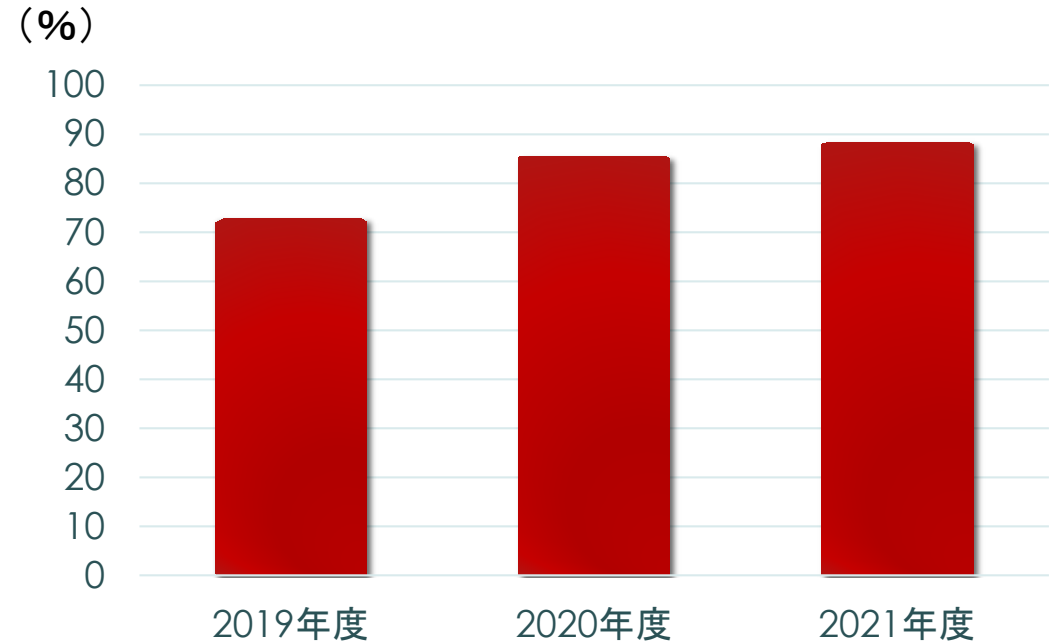
## ● 目標

全例二重束で行いたいところですが、再断裂例やハムストリングを使えないアスリートの場合などは1重束を行わざるを得ないこともあるため、90%を目標とします。

## ● 計画

新しいデバイスの開発や、若手医師のトレーニングなどを進めていきます。

## ● 実績



## ● 評価

昨年度、88%の症例はこの解剖学的二重束での再建を行うことができました。今後もこのペースでの再建術を行っていくよう努めてまいります。